



広げよう! つなげよう! 私たちの挑戦!!

上野原市立病院 特定ケア看護師 志村はるか

施設の紹介

上野原市は山梨県最東部に位置し、首都圏中心部まで約1時間とアクセスがよく通勤や通学にも便利な場所です。また、登山やハイキングコース、キャンプ場、温泉施設、ゴルフ場などもあり四季折々の自然を楽しむこともできるとも素敵なおとこです。

そんな大自然に囲まれた上野原市立病院は、病床数135床、市内唯一の二次救急医療機関として外来、入院、透析室、健診センター、それ以外に通所リハビリ、訪問看護、訪問診療、附属診療所もあり、上野原市内だけでなく、市外も含め地域で生活している人たちを支えています。

日々の挑戦 - 「院内初」特定ケア看護師の活動 -

わたしはNDC3期生として研修センターに入学し、自施設での臨床研修と合わせ約2年の期間を経て、今年度から特定ケア看護師として活動をしています。

わたしの1日は入院患者さんの情報収集から始まります。夜間の様子や新規入院患者さんをチェックし、ベッドサイドで身体診察やエコーを実施します。検査結果を確認し、必要なケアや検査、今後の方向性など担当医と相談し、指示入力や診療録記載などをします。また病棟看護師や、コメディカルの職員と相談や情報共有をし、それ以外にご家族やケアマネへ連絡をすることもあります。患者さんやその家族をよりよい方向に導くことができるよう、日々みんなと連携し活動しています。

現在は病棟の患者さんを中心に対応していま

すが、外来から連絡が入ることもあり、院内を横断的に活動しています。このように柔軟な活動ができるのは「特定ケア看護師」という存在を、医師や看護師、コメディカルの皆さんが理解し支えてくださっているからだと思います。悩んだり、困ったこともすぐに相談できる環境でもあり、多くの方に助けられておりとても働きやすいところですよ。

上野原市立病院の挑戦 - 地域で連携した取り組み -

当院でも新型コロナウイルス感染予防のために、早期から対策をしてきました。しかし病院スタッフから新型コロナウイルス陽性者が出たことにより、救急受け入れ中止や外来診療を閉鎖した期間もありました。上野原市は東京都、神奈川県と隣接しているため、いつ感染者が現れてもおかしくないと思っておりましたが、実際に外来診療閉鎖にまでなると院内は騒然となりました。しかし、スタッフが一丸となってこの病院初の事態に臨機応変に対応し、大きな混乱もなく外来診療再開となりました。閉鎖期間中は近隣住民の方々には、ご迷惑をおかけしてしまいましたが、今後、新たな感染者が院内で発生しないようにさまざまな取り組みを始めました。その一つとして、病院玄関口で発熱者や有症状者をトリアージする場所の設置と、発熱外来を開設することとなりました。

上野原市内では地域連携が盛んで、非公開型医療介護専用SNSを利用しクリニックや施設などと、新型コロナウイルス対策についての情報



発熱外来ははじめました。地域企業からリユースガウンを提供していただきました。ガウンの生地は傘に使用されるものです。高価な生地だそうで意外と蒸れずに快適です。

交換も活発に行われております。また、地域企業からの支援で、リユースガウンを提供していただいたりと新型コロナウイルス対策に活用させていただいております。

今後の挑戦 —活動の場はどんどん拡大—

当院で特定ケア看護師はわたし一人です。そのため、院内に目標となる診療看護師や先輩特定ケア看護師、同期のNDCもいないので、ときに心細さや不安を感じてしまいます。でもそんなときは、当院の特定ケア看護師の活動基盤を作り、わたしを指導してくださった診療看護師の筑井菜々子さんや、支援に来てくださったNDC 1期生や2期生の先輩方のかっこよくて頼もしい姿をいつも思い出して勇気を貰っています。



新人研修の様子です。毎年同僚とペアで新人の指導にあたっています。

す。尊敬する先輩方と働かせていただき、特定ケア看護師として活動するにはより一層の知識と技術が必要であると実感しました。そのため、特定ケア看護師としての能力をどのようにブラッシュアップするかは今後の課題の一つでもあります。また、特定ケア看護師の役割は、院内だけでなく院外での需要も必ずあると思います。地域連携の盛んな上野原市で活動の場を広げていけるように、今後は院外への発信もしていきたいと思っています。

一人の人間として、頭も心も表情も柔らかく、特定ケア看護師としては、チーム医療を隙間なく充実させることができるようにサポートしていけたらと思っています。

最後に2年間の研修期間を含め、多くの方々に支えられてきました。皆様のおかげでここまで来ることができました。その出会いとご協力に感謝申し上げます。